

飯伊 産業経済動向

No.479 2019/2
(31. 3. 25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,040	枚	△	17.6 %	△	5.2 %
	金額	4,177,126	千円	△	23.3 %	△	2.0 %
うち不渡発生状況	枚数	0	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 1 枚)	
	金額	0	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 223 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)(1月)	県内	4	件	(前月 3 件)		(前年同月 8 件)	
	飯伊	0	件	(前月 0 件)		(前年同月 1 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(1月)		56	戸		27.3 %		7.7 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(1月)		1.53	倍	(前月 1.65 倍)		(前年同月 1.63 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,370	台		25.5 %		0.6 %
	中古車	553	台		21.0 %		4.3 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (1月)	新車	4,276	台		11.3 %		13.3 %
	中古車	705	台	△	13.8 %		0.3 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	97,597	台	△	6.9 %		0.6 %
	出	99,051	台	△	5.4 %		1.3 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	64,062	台	△	7.7 %	△	2.3 %
	出	61,078	台	△	4.4 %	△	2.6 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	11,899	台	△	4.1 %	△	5.5 %
	出	12,245	台	△	3.3 %	△	7.2 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	31,969	台	△	6.5 %	△	0.8 %
	出	31,090	台	△	5.2 %	△	0.2 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		150	件		19.0 %	△	5.7 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		31	件	(前月 8 件)		(前年同月 10 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	23,442	人	△	12.3 %		5.8 %
	飯田～名古屋	17,414	人	△	2.5 %		3.3 %
	飯田～長野	8,411	人	△	0.3 %	△	0.7 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	18,738	人	△	11.0 %		- %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,109	人		3.2 %		3.5 %
	右回り	3,076	人		7.1 %		3.3 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物性油墨インキ
[リチウム]100% を使用しました。

再生紙を
使用しています

概況

製造業

2月の製造業の業況判断指数(DI)は、製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス13.8で、前月から25.5ポイント上昇。翌月予測もマイナス13.8で、前月から19.5ポイント上昇している。

電気、精密機械器具の販売は、横ばい～やや増加。一部に景況感が好転した業者も見られた。半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、一部にやや増加との声もあるが、やや減少との声が多く、総じて景況感も悪化。産業機器や医療機器向け部品の受注、販売の前月比は、やや増加した業者も複数あるが、減少～横ばい。景況感も悪化した業者が多い。ただ、「海外は景気後退の底が見えたような気もする。回復には程遠いが、少し受注も増えてきた。春先頃までに回復することを願っている」など、悪いながらも何らかの変化を伝える声が少なくない。建築用金属製品の受注は、前月比、前年比ともやや増加、景況感も好転との声が寄せられた。自動車向け部品の販売は、前月比やや減少、景況感も悪化との声。光学機器部品の販売は、前月比横ばい、前年比はやや減少という。小型電磁機器の販売は、前月比概ね横ばい、総じて景況感に動きは見られない。FA関連モーターの販売は、前月比、前年比ともやや増加も、「産業機械向けが減少で推移している」など受注が伸びないことや、先行きの見通しが良くないこともあり、景況感悪化との声が寄せられた。電気、電子製品の生産は、前月比やや減少との声。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、やや増加との声。一部に、前年比は若干減少との声が聞かれた。「一部の定番製品や特販向け製品の動きが悪かった」などの声が聞かれ、総じて景況感に変化は見られない。水引製品の販売は、前月比やや減少～横ばい。一部に受注がやや増加しているとの声も聞かれ、こうした業者では景況感も好転している。漬物の販売は、前月比やや増加との声。「各種資材、原材料の値上げの依頼が来ている」一方で、消費は「値上げ機運の高かった昨年から一転し、デフレの懸念」があるとの声が寄せられた。

建設業

2月の建設業の景況DIはプラス7.1で、前月から22.5ポイント上昇。翌月予測DIはマイナス12.5で、前月から5.4ポイント低下。

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約13.5億円となっている(3月15日調査時点)。

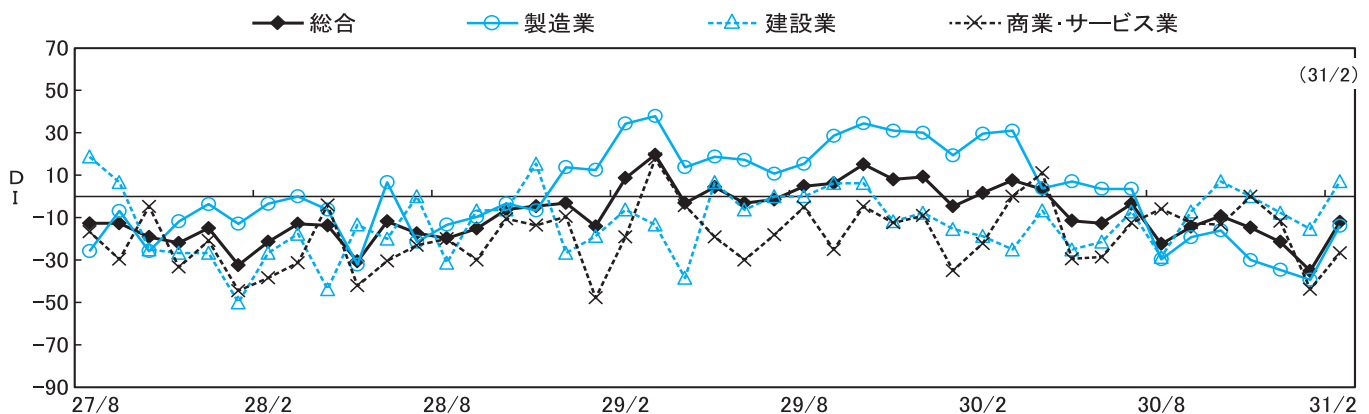
当月の調査先企業の受注残高の前月比は、一部にやや減少との声も聞かれたが、横ばい～やや増加との声が多い。年度末もあって、完工高が増加した業者が多く、除雪作業こそなかったものの、各社多忙な様子が窺える。

当地区の1月の住宅着工戸数は56戸。前月比28%増加、前年比も8%増加。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。「建築で受注が進んだ」などの声の一方、「仕事が薄くなってきた」などの声も聞かれ、一部に景況感が悪化した業者も見られた。

商業・サービス業

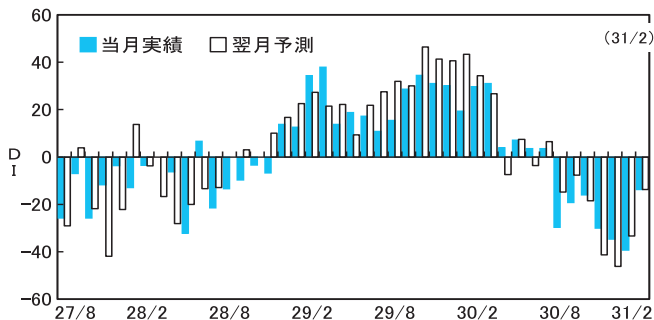
2月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス26.7と、前月より17.1ポイント上昇。翌月予測DIは、プラス12.5で、前月より52.5ポイント上昇している。食料品の売上の前月比は、減少～やや減少。一部に前年比もやや減少との声。総じて景況感に動きは見られない。青果卸売市場の販売は、前月比、前年比とも減少、先行きは増加を見込んでいるという。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加も、景況感に動きは感じられないとの声。電化製品の売上は、前月比、前年比ともやや増加との声が寄せられた。家事用品の売上は、前月比、前年比ともやや増加、景況感も良好との声。OA、事務機器の売上は、前月比増加も、前年比減少という。娯楽用品の売上は、「前月は正月商戦だったため」前月比減少の様子。衣料の売上は、前月比、前年比とも増加も、「暖冬の影響が客足が鈍く売上に影響がある」という。土産物の売上は、前月比やや減少、景況感も悪化との声。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比26%増加、前年比も1%増加。平成31年1月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比11%増加、前年比も13%増加。市内料理店の売上は、前月比減少、前年比はやや減少～横ばい。昼神温泉の売上は、前月比やや減少～概ね横ばい。一部に前年比がやや減少との声も。タクシーの売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。

飯伊地区景況DI (本誌調査)



地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



当月実績DI -13.8 (前月 -39.3)

翌月予測DI -13.8 (前月 -33.3)

当月の製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス13.8で、前月から25.5ポイント上昇。翌月予測もマイナス13.8で、前月から19.5ポイント上昇している。

経済産業省2018年版ものづくり白書から

2018年版ものづくり白書では、「21世紀の経済発展に不可欠なグローバル資源となった『データ』」について分析を行っている。これによれば「とりわけ設備稼働状況、製品の品質情報や作業者の挙動といった製造現場系のデータについて、デバイスや画像認識技術の進化に伴って、個体ごと・個別機械ごとの収集が容易となった。このようにものづくり企業の足下や周囲には『宝の山』ともいえるリアルデータが潜在的に存在している」としている。

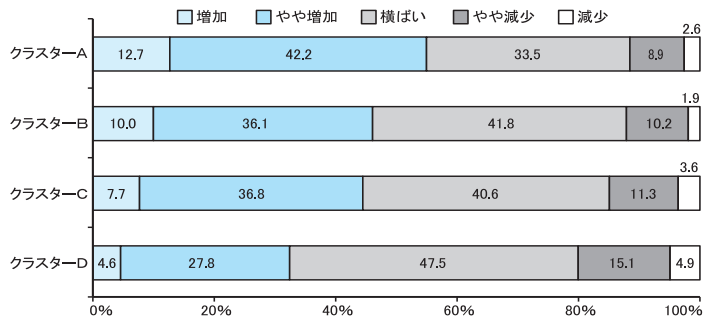
この中でデータ収集の目的に応じて具体的に収集しているデータを聞いたところ、全般的に「生産品質データ」が重視されるがあり、特に「生産計画の精度向上を目的とする場合にその傾向が強い」ほか、「設備稼働データや作業員データなどが主に収集されている」という。

	具体的に収集しているデータ							
	生産品質データ	設備稼働データ	エネルギーデータ	環境データ	検査データ	購買・調達データ	作業員データ	その他
生産計画の精度向上 (n=1709)	82.8%	58.6%	7.3%	3.8%	19.4%	19.8%	33.9%	1.1%
製造工程の効率化 (n=1980)	72.8%	73.1%	16.2%	6.9%	27.6%	14.2%	44.3%	0.7%
品質の向上 (n=1884)	56.4%	17.6%	4.4%	12.0%	80.2%	5.8%	21.5%	0.6%
リードタイムの短縮 (n=1226)	72.7%	63.1%	3.5%	2.1%	19.9%	16.1%	41.9%	1.0%
コストダウン (n=1598)	63.2%	50.4%	31.7%	7.0%	30.9%	63.8%	38.6%	0.4%
トレーサビリティの実施 (n=1109)	61.8%	28.6%	5.7%	11.8%	62.2%	29.1%	33.9%	2.3%
技能承継 (n=640)	38.9%	28.9%	3.9%	4.8%	24.1%	3.1%	80.5%	1.4%
生産自動化 (n=711)	63.2%	67.9%	7.9%	6.2%	25.0%	7.7%	54.6%	1.3%
検査工程の省力化 (n=715)	37.3%	20.4%	3.6%	5.3%	82.0%	4.1%	35.2%	1.5%
サプライチェーンの効率化 (n=488)	43.2%	24.2%	3.7%	3.3%	31.1%	66.2%	20.1%	3.1%
その他 (n=58)	31.0%	22.4%	34.5%	29.3%	17.2%	17.2%	20.7%	8.6%

上段：利用割合 下段：利用順位 上位3者を網掛け

IoTの導入・活用度合いを、「高い」(クラスターA)「比較的高い」(同B)「平均的」(同C)「低い」(同D)のクラスターに分けて、IoTの利活用度合いと、今後3年間の国内営業利益の見通しの関係性を見ると、クラスターDからAに向かうほど、今後の利益見通しについて「増加」「やや増加」と回答する企業の割合が高く、「IoTの利活用に積極的なグループほど、今後の業績に明るい見通しを持っている傾向があ

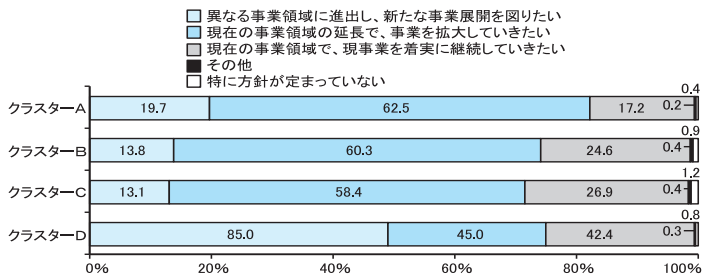
今後3年間の国内営業利益見通しとの関係



る」としている。

同様にIoTの利活用度合いと、事業展開の積極性との関係を見ると、「IoTの利活用に積極的なグループほど、異業種への進出や既存事業の拡大に意欲的」という。

IoT活用度合いと事業展開の積極性との関係



IoTの導入、利活用に関するご相談は、よろず支援拠点をご利用いただけるほか、当金庫製造業アドバイザーにも支援実例があります。当金庫営業担当者、地域サポート部にお申し付けください。

(引用、図表出典は全て経済産業省「2018年版ものづくり白書」)

機械加工製造業

電気、精密機械器具の販売は、横ばい～やや増加。一部に景況感が好転した業者も見られた。先行きも上含みとの見方が多い。当月、原材料、資材価格や販売価格に大きな動きはなかった様子。雇用面で不足感を指摘する声が聞かれた。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、一部にやや増加との声もあるが、前月比やや減少との声が多く、総じて景況感も悪化している。「設備投資の後ろ倒しは継続」「ものによっては、調整中だが底堅く推移しているものもある」「サーバー向けは投資の後ろ倒しが続いている」「FPD関連減少」などの声が聞かれ、先行きの見方も総じて弱含み。原材料、資材価格に関し、「値下がり基調も、ニッケル系は強含み」との報。製品価格について「この時期年に一度のコスト見直しがある」「コストダウン要求は継続」などの声が寄せられた。雇用面では、当面現状維持との声が多いが、「正社員、新卒者ともに複数名」との声も。設備面では積極的な声が少ない。

産業機器や医療機器向け部品の受注、販売の前月比は、やや増加した業者も複数あるが、減少～横ばい。「今月は受注、販売とも増加したが、先月が悪すぎ」「昨年11月頃から物流が減少し、その後の3か月間減少が続いている。11月以降景気が後退しているのではないかと。当月、次月は棚卸決算も重なり厳しい」「同業にはリーマンショック時の動きに近いとの声も」「半導体が動かず全体的に悪い」「客先は、6月頃までは動くとの話だが、その先は不透明」など、景況感も悪化した業者が多い。ただ、「客先によっては量産品の生産量が増えるとの内示あり。設備の見直しを検討

「海外は景気後退の底が見えたような気もする。回復には程遠いが、少し受注も増えてきた。春先頃までに回復することを願っている」「全体的には、動きが悪く先も見えないとの声が多いが、そうした中、車関係の設備は多少動いている」「ここにきて一部に2~3か月先の話も出てきた」「仕事量は減少しているが、納期の長い物件も出てきた」など、悪いながらも何らかの変化を伝える声が少なくない。

原材料、資材価格では、大きな変化はなかったとの声が多いが、「段ボールの値上げ」「アルミが値下がり」などの報が寄せられた。製品価格に関し、「単価見直しの時期」というが、「厳しい」ながらも、あまり大きな変化はないとの声が多数を占める。雇用面では、現状維持との声が多い中、「自己都合退社があった。募集しているが、なかなか来ない」「1名補充。今後定年退職者の補充が問題」「派遣等で手当てができ当面問題ないが、来春の新卒者をどうするか要検討」などの声も。

建築用金属製品の受注は、前月比、前年比ともやや増加、販売が増加したこともあり、景況感是好転との声が寄せられた。「首都圏をはじめ、関西、東北も順調。大型物件に動きがある」といい、先行きもこうした状況は続く見込みという。原材料に関し、「非鉄は下落。表面処理鋼板は上昇」との報。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

自動車向け部品の販売は、前月比やや減少、景況感悪化との声が多く寄せられた。先行きは大きな動きは見込まれていないという。

光学機器部品の販売は、前月比横ばい、前年比はやや減少との声。景況感が悪化した業者も見られた。雇用面、設備面で積極的な声は聞かれない。

小型電磁機器の販売は、前月比概ね横ばい、総じて景況感に動きは見られない。先行きも大きな動きは見込まれていない。一部に原材料、資材価格がやや上昇との声。雇用面では現状維持の様子。設備面で積極的な声が聞かれた。

FA関連モーターの販売は、前月比、前年比ともやや増加も、「産業機械向けが減少で推移している」など、受注が伸びないことや、先行きの見通しが良くないこともあり、景況感悪化との声が多く寄せられた。「中国における米中貿易摩擦の影響が、国内販売で出始めており、今後の状況は悪化することが懸念される」など、依然世界的な経済状況が景況感に影響を与えている様子。

電気、電子製品の生産は、前月比やや減少、「量販市場の急激な減少に対応が遅れている感」など、景況感悪化との声が多く寄せられた。雇用面の不足感は続いている様子。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、やや増加との声。一部に、前年比は若干減少との声も聞かれた。「一部の定番商品や特販向け製品の動きが悪かった」「食品全般に前年割れというスーパーが多い」「人手不足があっても、景気が良いとは思えない」などの声が聞かれ、総じて景況感に変化は見られない。「コスト的に運賃上昇の影響が大きい。また、数量の制限があり、ゴールデンウィーク10連休への対応が大変になりそう」という。雇用面では現状維持との声が多い。設備面で積極的な声がある。

水引製品の販売は、前月比やや減少~横ばい。一部に受注がやや増加しているとの声も聞かれ、こうした業者では景況感も好転している。「新年度の注文が始まる始期だが、今年は改元、10月の消費増税を控え、これまで以上に様子見感が強い。逆に年初には高額商品が売れたとの話も聞く」「当月は例年になく不振で販売数が減少。売上目標に届かず、新製品の開発も思うに任せない」などの声が寄せられた。販売価格に関し、「運賃の値上りが大きい上に、人件費等も上がってきているため、値上げに動かざるを得ない」との声。「3月エスバードが竣工、本格稼働する。水引産業活

性化の起爆剤となることを改めて期待」「水引カプセルなどマスコミを賑わせる話題もある一方、全般には販売不振が続いている。後継者問題を抱え廃業する同業もあり、今後が不安」などの声が寄せられた。一部に、雇用面、設備面で積極的な声も。

漬物の販売は、前月比やや増加との声。「各種資材、原材料の値上げの依頼が来ている」一方で、消費は「値上げ機運の高かった昨年から一転し、デフレの懸念」との声が寄せられた。

その他製造業

食品関連包材の生産は、前月比減少との声が多く寄せられた。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかったという。

印刷、出版関連の売上は、前月比やや増加も、前年比概ね横ばい、「様々な事情があった中、何とか対前年を確保できたのは良かった」との声が聞かれた。先行きは上向きという。「製紙、封筒メーカーが足並みをそろえて値上げしている」ことの影響は小さくない様子で、「お客様にお願いしているが、同業者間でも足並みが揃わないこともあって、なかなか理解を得られないケースも多い」「紙不足も発生しており、通常1~2日で入荷していたものが、3日以上かかるものもある。再生紙にいたっては無い紙種もある」などの声が多く寄せられた。雇用面で、「求人中。早く手当てをしたいと思っているのだが」との声。

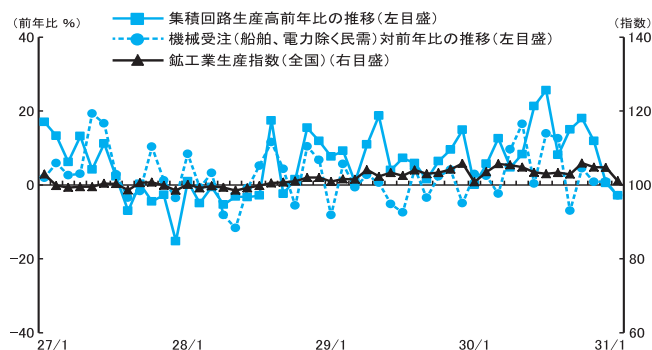
衣料品の受注は、前月比、前年比ともやや増加の様子。「気温が高く春物が順調。売れ筋はジャケット、スカート、ワンピース、スウェットトップ等。ただアウター全般の売行きが良いというわけではなく、冬物の不振が足を引っ張っている」などの声が聞かれ、景況感も好転している。「来月は商業施設の開業、改装に加え、春休みに入ることで消費が拡大しそう」など先行きも上向きという。こうした中、「依然職人不足は続いており、技術の伝承に危機感がある」との声が寄せられた。当月、原材料、資材価格がやや上昇した様子。設備面で積極的な声がある。

住宅機器、オフィス家具、店舗用什器等家具の生産は、前月比、前年比ともやや増加との声。「2月の情報では発注の下方修正があったが、急転直下状況が一変し、多忙な状況となった」など景況感も好転している。目下のところ先行きに大きな動きは見込まれていないものの、「地域差はあるものの、4月以降の閑散を心配する声も聞かれる」という。原材料、資材価格が昨年より上昇との声。雇用面、設備面で積極的な声は聞かれなかった。

【企業からのコメント】

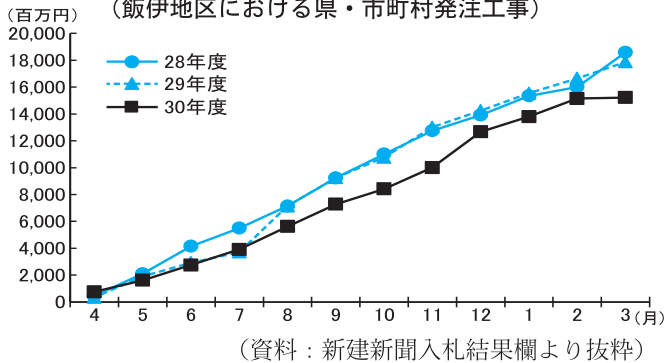
- ★以前のサプライチェーンなら受注につながり大きく売上に貢献したと思われる案件があったが、サプライチェーンが弱体化しているためにお断りせざるを得なかった。
- ★経営は、時代の変化にいかに対応し、またいかに先取りが必要かを身に染みて感じる。
- ★大型の案件を受注し多忙な状況となった。

集積回路、機械受注・鉱工業生産指数の推移



入札額累計の推移

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI	7.1	(前月 -15.4)
翌月予測DI	-12.5	(前月 -7.1)

官公需

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約13.5億円となっている(3月15日調査時点)。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、一部にやや減少との声も聞かれたが、横ばい～やや増加との声が多い。

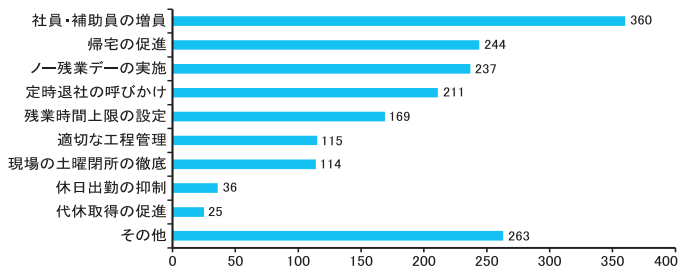
年度末もあって、完工高が増加した業者が多く、除雪作業こそなかったものの、各社多忙な様子が窺える。先月来、「災害関連の工事を中心に工事量は多い。未着手工事もある」など、防災、減災工事の発注が進んでいる様子だが、これについては、「補正予算工事や年度末の駆け込み工事、エアコン設置工事などを合わせて、春先に仕事がないということはないだろう」「災害関連で景況は上向き。外注を頼んでいる」といった声の一方、「発注にはなっているが、競争は激しい」「入札が不調になっているものもあるが、これは発注時期が重なったために起こった現象ではないか。全体としては工事量は少ない状況」「年度末に発注になっても、技術者不足、労務不足で不落になることが多い」などの声も聞かれ、総じてさほど景況感是好転していない。

「技術者が不足。この傾向は続きそう」「土木、建築ともに下請け業者が不足気味」「技術者も不足しているが、特に営業を必要としている」「施工職員募集」など、人員、労務の不足を指摘する声は他にも聞かれたが、「目下のところ、工事件数に対し不足しているが、完成してくれば緩和してくるだろう」「下請けやパートさんを頼んで、年度末までは現状でいく」など、直ちに雇用を増やす、ないしは増やせるとの声は多くない。

先行きに関しては、「新年度予算が少しずつ見えてきたが、良さそうに思う」「長野県の2月補正や、国の国土強靭化で新年度以降発注量が多くなると予想される。地元業者も久しぶりに選択受注できるのでは」などの声も聞かれた。こうした中、「国土強靭化で3年間の集中投資が予想される。これはこれだが、業界全体としては、短期的ではなく、長期にわたる施策が必要だと考えられている」との声も。

全中建 人材確保・育成対策等に係る調査結果

全国中小建設業協会が会員企業を対象に人材確保、時間外労働の削減対策 - 自社における取組事項(複数回答)



(全国中小建設業協会「平成29年度人材確保・育成対策等に係る実態調査結果について」)

育成対策や働き方改革についてアンケート調査を行った。この中ではいわゆる担い手三法に関し、予定価格や積算基準、工期の設定、設計変更、低入札価格基準調査等を適正であると感じるか否か、担い手確保に関連し、技術者技能者、特に女性の採用や採用予定と離職状況、働き方改革に関連して時間外労働の実態や発生原因、週休二日制の取組みなどについて聞いている。この中で、時間外労働の削減のために自社で行っている対策を聞いたところ、「社員・補助員の増員」との回答が最も多かった。

民需

当地区の1月の住宅着工戸数は56戸。前月比28%増加、前年比も8%増加している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。「建築で受注が進んだ」などの声の一方、「新築工事もリフォームも動きは遅い」「工事が終わってくるので、後が厳しい」「仕事が薄くなってきた」「新築はない。改修、解体工事のみ」などの声も聞かれ、一部に景況感が悪化した業者も見られた。「相変わらず鉄骨が高い」など工事単価が上昇しているとの声。雇用面で「求人中」といった声の一方、「現状は適当だが、今後過剰感が出そう」との声も。設備面で積極的な声も聞かれた。

建設資材

鋼材の売上は、前月比概ね横ばい、前年比は増加との声。「冬場の2月としてはまあまあの結果。売上は良かったといえるが、利益率が下がった」という。「目立った動きはないが、鋼材の動きは決して好調とは言えない。更に製造業を中心に先行きに不安感がある。海外情勢次第というのは歯がゆさを感じる」「仕入業者もトラックの確保に苦労している」などの声が寄せられた。鋼材価格は「横ばい状況が続く。二次製品などでは、春先に値上げが予定されているものもある」との報が寄せられた。

生コンの売上は、前月比増加も、前年比減少。「主な出荷は、リニア関連工事、三遠南信自動車道工事、バイパス工事、護岸工事、発電所・工場・倉庫建設工事などに関わるもの」という。地域によっては「堰堤工事の副提工事が始まり前月より出荷があった。河川の災害関連工事も始まり、この先の出荷も期待できそう」との声。「リニア関連工事の出荷量は前月より若干増加」という。

骨材の売上は、前月比、前年比とも調査先により増減分かれる。増加したとする業者からは、「日々それほど忙しい感じはないが、気が付けば前月比、前年比とも増加。天候に恵まれ、各取引先が順調だった結果ではないか」などの声。一部に雇用面、設備面で積極的な声も聞かれた。

【企業からのコメント】

- ★地元業者は災害関連の工事が受注できた。
- ★同業では営業停止を予定しているところもある。また減っていく。
- ★災害関連を中心に工事は多いが、当社は補助金の関連もあって農業関連を基盤としている。底固めを大事にしている。
- ★土木は忙しいようだ。バブルの頃を彷彿とさせる。

住宅建築確認申請受付状況(※本誌調査による概数)

2月 ○飯田建設事務所分

新築 18件 (前年 16件)

増築 2件 (前年 4件)

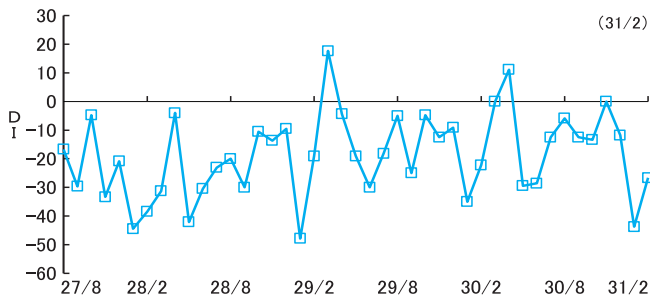
○飯田市役所分

新築 21件 (前年 20件)

増築 3件 (前年 3件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業DI



当月景況DI	-26.7 (先月 -43.8)
翌月予測DI	12.5 (先月 -40.0)

商業

食品の売上の前月比は、減少～やや減少。一部に前年比もやや減少との声。先行きは上向きとの声が多い。仕入価格が上昇している様子。予定されている消費増税に関し、「軽減税率対応としてシステム対応が必要になるが、3月現在実施が確定していない。中止になれば費用が無駄になるが、かといって対応しなければ間に合わない。小さくない投資でリスクを感じる」との声が聞かれた。雇用面で、一部に「新卒者複数名入社予定。中途採用も引き続き続ける」との声が聞かれた。

【青果卸売市場】

販売は前月比、前年比とも減少、先行きは増加を見込んでいるという。

野菜は、「依然として価格低迷が続いている。白菜、キャベツは70%安、レタス、大根は50%安と、重要野菜の価格低迷が響き、野菜全体でも前年比25%安で厳しい状況」という。

果実は、「主力の苺は品薄で2割高。昨年裏年の柑橘類の価格は1～2割安。果実全体では入荷8%増で、価格は4%安だった」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加も、景況感に動きは感じられないとの声。先行きも上向きで商品在庫を増やしているという。仕入価格や販売価格に大きな動きはなかった様子。

電化製品の売上は、前月比、前年比ともやや増加との声。「学校関連の空調設備事業で受注は増加している。しかし、工期が短く、人手、材料ともに不足感が否めない」「運賃の値上げ、中国国内の人件費増加などの価格転嫁が進んでいることなど、仕入全般に値上がりが進んでいる。利益を確保することが今後の課題となりそう」などの声が寄せられた。

家事用品の売上は、前月比、前年比ともやや増加、景況感も良好との声が寄せられた。「暖冬で冬物がほとんど売れない。防寒衣料や、特にカイロは近年にないほど売上が少なく、仕入なくとも売れ残るほど」「紙類の値上げと欠品が、特に大手の品で目立つ」などの声が寄せられた。「消費増税対策が間に合わない。ややこしくて大変。切手、印紙、証紙などは原則としてカード決済ができないが、現金扱いとカード決済を分けることも手間の一つ。それに、カード決済も手数料等で販売店にはメリットはあまりないのではないかと」の声が寄せられた。

OA、事務機器の売上は、前月比増加も、前年比減少との声。「年度末の需要期に入った。官公庁向けの受注も増加しているが、例年よりは少ない感」「紙類の値上がりが目前。生産も減少するとの声があり、品薄が予想される」「軽減税率対応レジの需要をいかに取り込めるかが重要。当社も含め、各社PRを強化している」などの声が寄せられた。

娯楽用品の売上は、「前月は正月商戦だったため」前月比減少。前年比は「トントン」という。

衣料の売上は、前月比、前年比とも増加も、「暖冬の影響が客足が鈍く売上に影響がある」という。

土産物の売上は、前月比やや減少、景況感も悪化との声。先行きは販売の増加を見込んでいるという。当月も仕入価格が上昇基調にあるという。

松本自動車検査登録事務所管内の**自動車新規登録台数**は、新車は前月比26%増加、前年比も1%増加。中古車も、前月比21%増加、前年比は4%増加。平成31年1月の県全体の**軽自動車新規登録台数**は、新車は、前月比11%増加、前年比も13%増加。中古車は、前月比14%減少も、前年比は概ね横ばい。

サービス業

市内料理店の売上は、前月比減少、前年比はやや減少～横ばい。「当月は例年売上の落ちる月だが、1月の前年比がダウンしたため心配していた。しかし思ったほどの落ち込みではなかった。とはいえ、予約が遅く間近にならないと埋まらない週末があるなど、あまり良い感触がない。今後の動向にはさらに注意が必要」「前半は良かったが、後半から静かになった。あまり良い月ではなかった。景気は良くなっていない感」「良い月の後は悪くなるのだろうか。多忙な日と静かな日の差がある。また、週末の予約が重なる」「家族連れが少なくなっている」などの声が寄せられた。仕入に関し「市場も今までにないほど静かだと聞く。鮮魚の値段が下がっている」という。

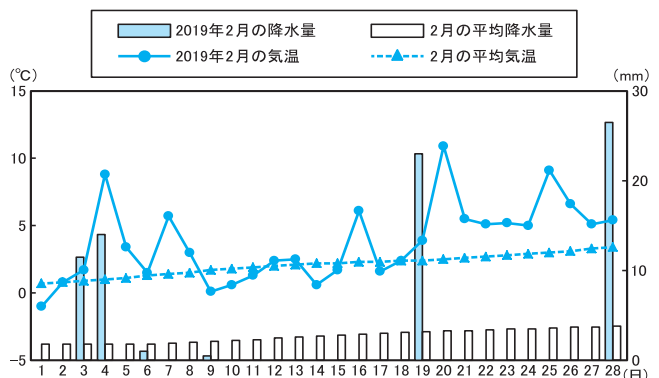
昼神温泉の売上は、前月比やや減少～概ね横ばい。一部に前年比がやや減少との声も。「団体客が減少」「期待を込めて、やや良くなることを願っている」などの声。人手不足は深刻で、「人手不足が慢性化している」「人手不足で満館にできない」「シルバー人材を依頼しても人材難との回答」などの声。ナイトツアーに関し、「スムーズに進行したい、近隣住民への配慮などから、チケットの購入方法が変更になり、キャンセル、変更などが制限されるようになった。入場制限の意図は理解できるが、お客様にとって購入方法が面倒になったし、事務的にも手が掛かる部分があり、客離れやクレームを心配している」との声が聞かれた。

タクシーの売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。「夜の町の勢いが戻ってこない。またこの時期は雪の影響で売上がかなり上下するが、今年はそれがなく、売上が伸びなかった」などの声が寄せられた。「運賃改定が現実味を帯びているが、お客様が何を求めているか、継続的なサービスを提供するにはどうしたらよいか、そういった観点から真剣に検討していく必要があると思う」という。「LPG価格は安定しつつある」との報が寄せられたほか、「従業員を複数募集」しているという。

【企業からのコメント】

- ★社員の厚生設備を作る予定。
- ★当月は、高額品の販促活動を行い、売上単価が上昇した。
- ★より専門的なメニューを出し、お客様に満足いただける価格を設定したい。
- ★後継者が戻り、だいぶ楽になった。お蔭で先行きは少し明るい、自分のやってきた経営スタイルや店の方針を、世代の異なる後継者に上手に継承していくことに難しさがある。
- ★10名募集。

飯田の気温と降水量



流れ雲の目(28) 伝える力(伝達能力)

飯田信用金庫 地域サポート部
専門アドバイザー 小泉 敏郎

貴方は自分の意見、意思を正しく相手に伝えることができますか？
聞き手に巧く論理的に説明できていますか？
話下手と言われて仕事や生活面で損をしていませんか？

人間社会のあらゆる生活の上で何をするにも、自分の意思を相手に伝えるためには会話、論理的な説明が不可欠です。新聞、テレビ、日常会話、仕事の打ち合わせ等、人間社会で一番大事なコミュニケーションで自分以外の人に物事を伝達したり説明したり説得したりお願いするには、必ず言葉が必要です。文章で伝えるにしても内容が分かりやすく確実に真意を相手に伝えなければ用を足しません。

伝えることとは自分の本当に言いたいことを相手に確実に理解してもらうことですが、人間にはそれぞれ個性、特性があり必ずしも的確に会話が伝わるとは限りません。

世の中の争い事の大多数はお互いの理解不足、意思伝達の不足や表現違いで誤解を生じることから発展しているケースだと思われます。

感情を持つ人間に的確に伝えるのに自分の言葉で普通に言えば確実に伝わるのでしょうか、小学生、中学生、高校生、大学生そして社会人に物事を話す、説明するには言い方や表現の仕方、語彙や言葉の選び方も当然違ってくるものです。同じ社会人に対しても皆同じ方法でよいとは言えません、自ずと違ってきて当たり前です。

相手が何を望んでいるのかを知ること。

何を伝えたいのか主題を明確にすること。

こんな分かりきったことが会社では巧くできずに問題を発生させていませんか、従業員も多種多様な性格の人がいますから同じ説明や同じ指示で伝えても本来貴方が望んだ事項が完璧に相手に伝わるとは限りません。話し手と聞き手の経験、知識、理解力の差も関係してきます。

我々人間は外部からの刺激を目や耳で受けとめ、それが脳に伝わり体の諸々の器官を総動員して緊張や感情が生まれます。言葉以前のこの感情を自分が頻繁に使う表現、持てる語彙の中から選び出し言葉として発します。聞いた相手は耳で受けとめて脳に運び諸々の器官を駆使して緊張や感情を呼び起こし自分の言葉に置き換えて理解をします。

ここで大事なことはお互いが自分の持てる知識や経験、語彙の中から判断して言葉を選び出すわけですから、話し手と聞き手が同じスキルや能力、知識、経験の持ち主で無い限り100%会話が理解されることは難しいということなのです。

話し下手の人の悩みは、雑談はできるが改まった話ができない、どんな風に説明したらいいかよく分からない、話しの組み立て方が良く分からない、論理的な説明ができない、何故か話が支離滅裂になってしまう等いろいろありますが、大事な観点は相手に何を伝えたいのかを明確に認識して会話しているかではないでしょうか。

そして会話もある意味でテクニックなのですから話し上手な人の真似、説明上手な人の真似をすることです。真似をして時には失敗するかも知れませんが、そのうちに段々自分のものになり要点を簡潔に説明できるようになってくるものです。スポーツでも学問でも仕事でも最初は人の真似から始まります。

ある会社で優秀な技術者が新製品の開発を行いその製品化が完了し新発売の運びとなり、新製品拡販に営業マンとその開発技術者が同行で各客先をまわり始めました。

客先で開発技術者が新製品の説明を始めたのです、いかにこの開発に苦労したのか、技術的にいかに素晴らしいものなのか、精度がよく画期的な製品であるとかの説明を懇切丁寧にしたのですが、客先の社長は余り興味を示しませんでした。そこで営業マンがこの新製品を使用することによりいかに客先の製品の生産効率が上がるとか、製品性能や品質が良くなるとか、製造コストの削減になるとかの説明をすると客先の社長は身を乗り出して説明を真剣に聞きいろいろと質問もしましたのです。結してこの技術者の能力が無いというわけではないし、営業マンが特別に優秀だったわけでもありません。要するに聞き手の欲しい情報をどちらが的確に提供したかの違いなのです。客先の社長は難しい技術的背景を知りたい訳ではなく、購入して使用することにより自社にどのようなメリットが享受できるかが大事なのです。

客先は何を望んでいるかをよく把握して、話しの主題を明確に客先に理解できるように会話をしなければなりません。

会話や説明は話し手の主旨が相手に確実に伝わって始めて用を成すものです。

人それぞれの特性が違うので特に仕事では聞き手に確実に理解できるように話をすることが大事です。従業員に対しては指示が確実に伝わり、納得して指示通りの仕事が進むように話さなければなりません。

上司に対しては現状の問題点を明確に説明し自分としての対応方法をハッキリと述べるのが大事です。できれば、社長にこの問題はどうかでは無く対応方法論をいくつか用意しそれぞれのメリット、デメリットを表し、自分としてはこれで行きたいが承認頂けますかと意思表示をするのが最高なのですが。

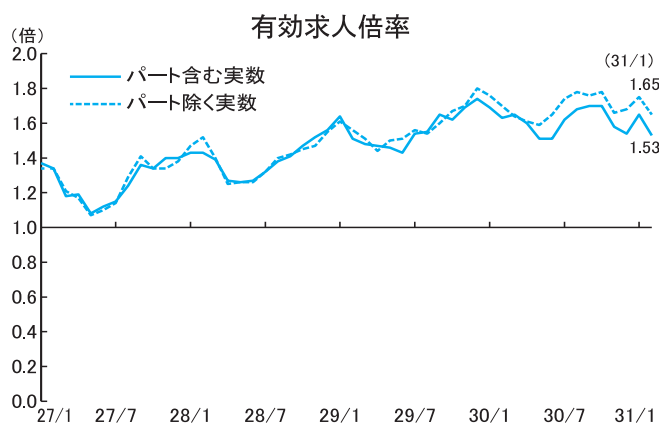
口は災いの元という諺もありますが、顔と顔を付き合わせた会話ほど有効なコミュニケーション方法はありません。話し上手になる必要はありませんが、会話で損をせず仕事に役に立ち、人間関係が円滑に進むようにしたいものです。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

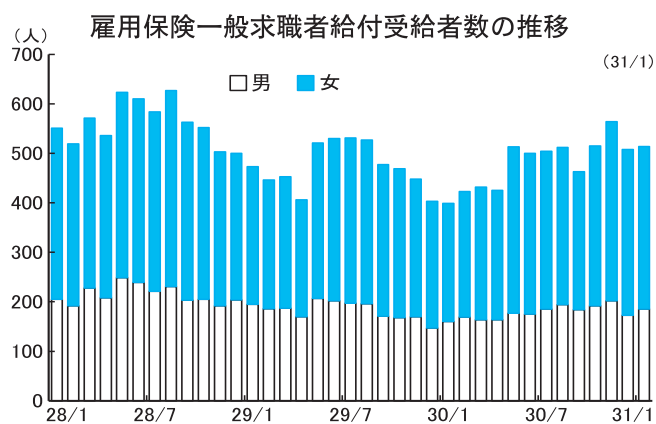
今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 小泉 敏郎 は、工場、営業、企画など製造業の各部門を経験し、取締役、社長として経営にも携わった経験を基に、皆様の工場等を拝見し、お話を伺った上で、多角的な視点から、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、お取引の支店、または 飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

雇用の状況



31年1月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.53倍と、前月から0.12ポイント低下。パートを除く実数は1.65倍で、前月から0.10ポイント低下している。



31年1月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は12人増加、女性は6人減少。全体では514人と前月から6人増加している。

(資料：ハローワーク飯田)

リニア関連事業への思いと市議会の対応 ～ 飯田市議会リニア推進特別委員長にきく～

飯田市議会は、改選後2年を経過するところで常任委員会・特別委員会構成が変わり、リニア推進特別委員会（委員長：井坪 隆 市議会議員）も新委員会メンバーに引継ぐ。井坪委員長がこの間の委員会活動などを振り返る。



井坪 隆 飯田市議会リニア推進特別委員長

ー リニア推進特別委員会の委員会活動振り返りの内容は。

市議会では委員会の切り替え時に、委員会活動の総括と次期委員会への申し送り事項をまとめることになっており、リニア推進特別委員会としてのまとめを行った。

まず取り上げたのは特別委員会としてのあり方について。リニア推進特別委員会は、飯田市の行うリニア駅周辺整備を主な対象としていること、また議案の審議を行う機能がないことから、市執行部からの報告を受けるだけということにならないように、と委員の思いがある。

当特別委員会としては、「市民の声が活きる議会」、市民との意見交換を通じリニアに対する考え方をまとめることとしてきた。上郷北条地区リニア対策委員会に出向き懇談会を開催した。平成30年6月には飯田市リニア推進部に対しリニア推進特別委員会として「事業の対象となる住民への丁寧な対応について」などを内容とする要望書を提出した。住民の立場に立って市へ声を届けるということで、議会の役割として適切な対応ができたのではと感じている。

市民との意見交換では、まちづくりに取り組む各団体、南信州アルプスフォーラムやNPOいいだ応援ネットワークとの意見交換会を行った。当特別委員会としてもまちづくりの視点、つまりリニア駅整備は、いわゆる駅周辺だけでなく、リニア駅は起点であって中心市街地や飯伊地域、上伊那地域とどう結びつけるかを考えることが必要、との共通の認識を持つに至っている。

議会主催によりリニア駅周辺整備検討会議の座長を務められる小澤一郎氏の講演会を開催したことで、自動運転を中心とする「新しいモビリティ」という考え方を一気に広めることができたと考えている。

ー 昨年の12月議会での委員会視察報告で、高岡市の新幹線新駅整備を巡る財政問題には興味を引かれました。

その後高岡市から財務資料を取り寄せたとのことですが。

高岡市の資料によると、新高岡駅周辺整備の事業費は約100億円。財源内訳は50億円が国・県の補助金、45億円が起債、残り5億円が一般財源であった。現在、飯田市ではリニア駅周辺整備にあたり、基本設計、実施設計へと作業が進められているが、議会としても高岡市の例を参考にしながら、飯田市の財政出動を注視していきたい。



北陸新幹線 新高岡駅（リニア対策課撮影）

高岡市が財政難に陥っているとの報道があったが、単に新幹線駅整備によって引き起こされたというものではないことである。高岡市は新幹線駅周辺整備に約100億円かけるとともに北陸本線（現あいの風とやま鉄道）高岡駅周辺整備に約150億円かけている。また市立文化会館があるのに県立文化会館を誘致するなどが積み上がった結果であり、これに対する議会のチェックが十分でなかったという反省があることを、飯田市議会として「他山の石とする」ことが必要と考える。

飯田市でも、リニア駅周辺整備事業費が、基本設計の検討で出てきたデザインなどで膨らむのではと憶測されているが、どれ位になるのか。また、乗換新駅は請願駅として進められ、ひと口に5億円かかると言われているが、新たに駅を設置するとなれば関係自治体での負担をどうするかという問題が出てくる。

また、「アリーナ機能を中心とした複合施設」についても近いうちに方向が出されるが、これも市として対応が迫られることになる。文化会館の建て替えは、3月議会の中でリニア開業時まで優先的に整備すべき事業を整理し目途がついた後に見通しを立てる、との表明があったが、実施となれば他市の例から数十億円といった金額も取り沙汰される事業となる。

これらが出て来たとき、市議会としてどう判断していくか、議会が本領を發揮すべきときが来ると考えている。

ー 今後、リニア関連事業費が組上に載ったとき、リニア推進特別委員会がどう対応するか。

それが、特別委員会としての難しいところである。最初に述べたが、特別委員会はある期間の中で特定事項についての調査・研究を行うもので、議案・予算審議は馴染まないとされており、リニア関連事業予算は関連するそれぞれの常任委員会、例えば産業建設委員会など、で審議されることになる。かつて市議会では、天龍川治水対策の予算審議を特別委員会で行った例があるが、これは治水対策特別会計で行われた事業。リニア関連事業は常任委員会を跨ぐ内容があり、当特別委員会での審議という訳にはいかない。

ただ、こうした「議会運営上の問題」と言っても市民の皆さまにとっては判り難いことであり、リニア関連予算審議の上で透明性が担保されることが肝要である。そして、リニア推進特別委員会としては、これまで視察や研修を行い検討を重ねて知見・知識の蓄積を進めてきており、当然これらを基にリニア関連予算審議に携わるべきとの考えがある。そのことも特別委員会まとめの中に意見として入れてある。いずれにせよリニア事業に関係する市民の皆さまや広く市民から声をお聞きする機会を設け、リニア関連事業が、当地域の振興と暮らし豊かな地域づくりにつながるよう、適切に判断してまいりたい。

委員会メンバーが替わっても、当特別委員会が変わらずに機能して欲しいというのがリニア推進特別委員会まとめに込めた思いである。

（飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平）



高岡駅（あいの風とやま鉄道＝旧北陸本線）再開発
（リニア対策課撮影）

改元記念特集

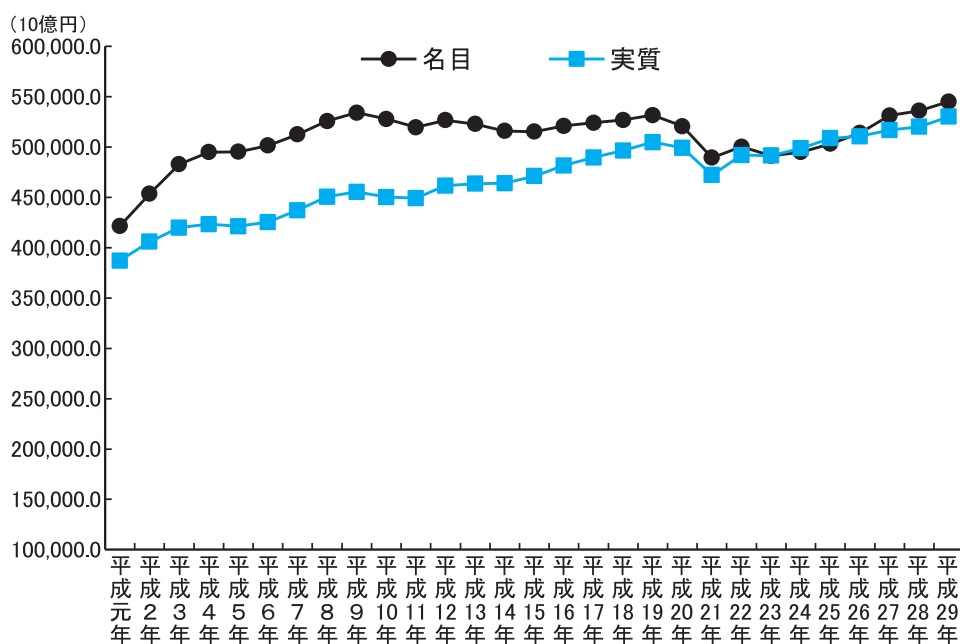
～ あの時、あの頃～ 平成30年間の諸指標の推移（1）



飯田信用金庫新本店 平成18年9月19日 営業開始

飯田信用金庫地域サポート部 南信州地域研究所

日本のGDPの推移



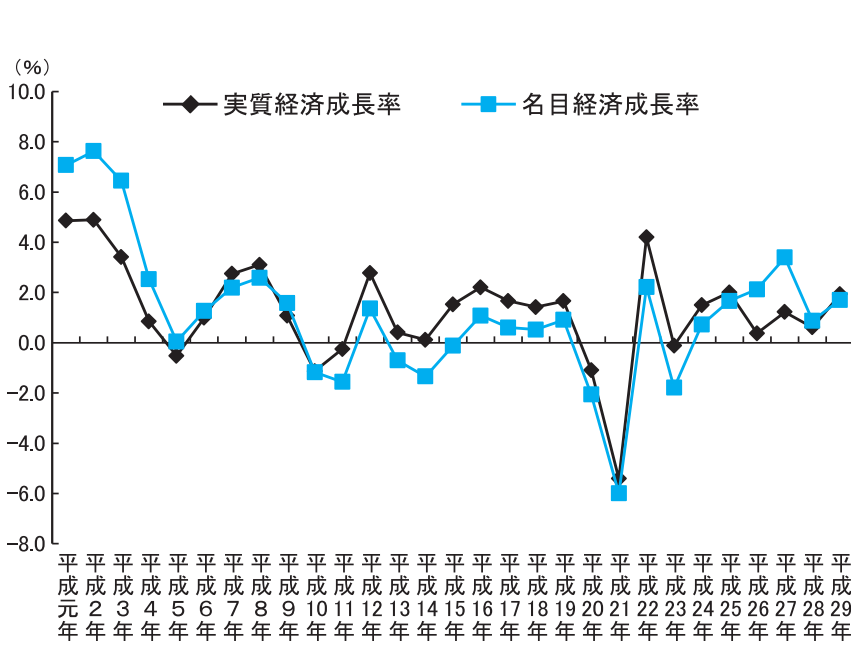
単位：10億円

暦年	名目	実質
平成元年	421,469.4	387,069.5
平成2年	453,608.5	406,007.7
平成3年	482,845.4	419,883.0
平成4年	495,055.8	423,443.9
平成5年	495,291.0	421,250.8
平成6年	501,537.7	425,434.1
平成7年	512,541.7	437,100.1
平成8年	525,806.9	450,650.2
平成9年	534,142.5	455,499.4
平成10年	527,876.9	450,359.5
平成11年	519,651.8	449,224.8
平成12年	526,706.0	461,711.6
平成13年	523,005.0	463,587.7
平成14年	515,986.2	464,134.7
平成15年	515,400.7	471,227.7
平成16年	520,965.4	481,616.8
平成17年	524,132.8	489,624.5
平成18年	526,879.7	496,577.2
平成19年	531,688.2	504,791.5
平成20年	520,715.7	499,271.4
平成21年	489,501.0	472,228.8
平成22年	500,353.9	492,023.4
平成23年	491,408.5	491,455.5
平成24年	494,957.2	498,803.2
平成25年	503,175.6	508,780.6
平成26年	513,876.0	510,687.1
平成27年	531,319.8	516,932.4
平成28年	535,986.4	520,081.0
平成29年	545,121.9	530,112.1

※平成23年基準。実質は連鎖方式。
但し、平成元～5年は平成23年基準の簡易遡及による。

※平成28年、29年についてのみ、毎月勤労統計の再集計に伴う再計算がされている。
(資料：内閣府)

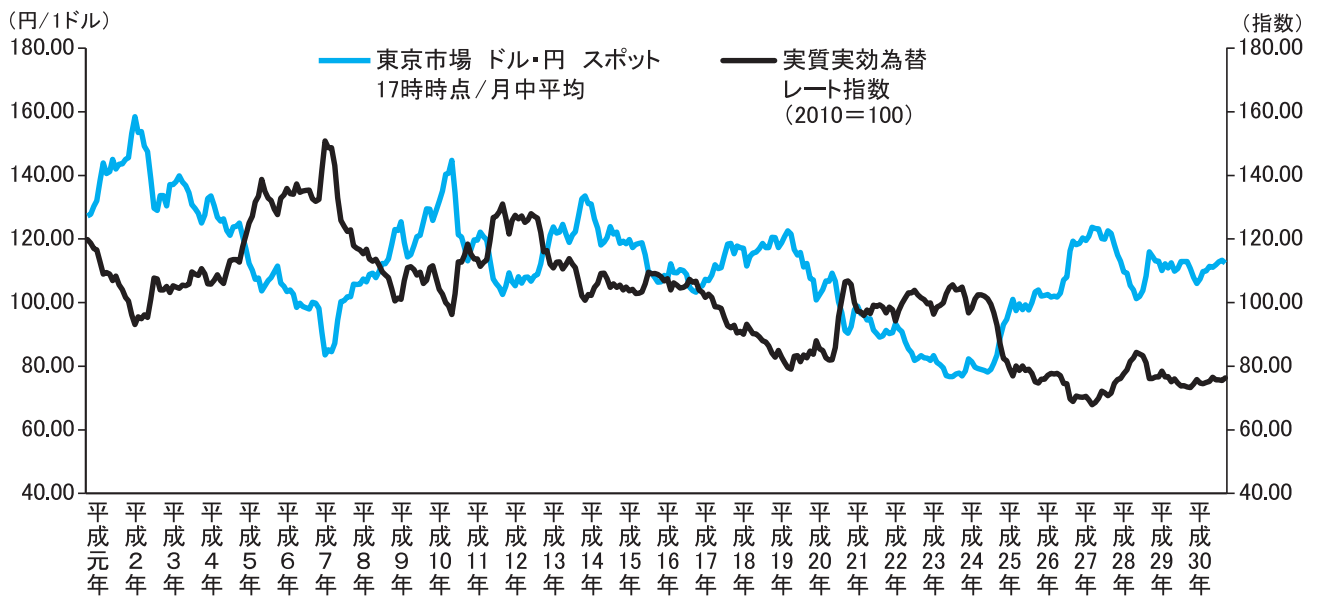
経済成長率（実質、名目）の推移



暦年	実質経済成長率 (%)	名目経済成長率 (%)
平成元年	4.9	7.1
平成2年	4.9	7.6
平成3年	3.4	6.4
平成4年	0.8	2.5
平成5年	-0.5	0.0
平成6年	1.0	1.3
平成7年	2.7	2.2
平成8年	3.1	2.6
平成9年	1.1	1.6
平成10年	-1.1	-1.2
平成11年	-0.3	-1.6
平成12年	2.8	1.4
平成13年	0.4	-0.7
平成14年	0.1	-1.3
平成15年	1.5	-0.1
平成16年	2.2	1.1
平成17年	1.7	0.6
平成18年	1.4	0.5
平成19年	1.7	0.9
平成20年	-1.1	-2.1
平成21年	-5.4	-6.0
平成22年	4.2	2.2
平成23年	-0.1	-1.8
平成24年	1.5	0.7
平成25年	2.0	1.7
平成26年	0.4	2.1
平成27年	1.2	3.4
平成28年	0.6	0.9
平成29年	1.9	1.7

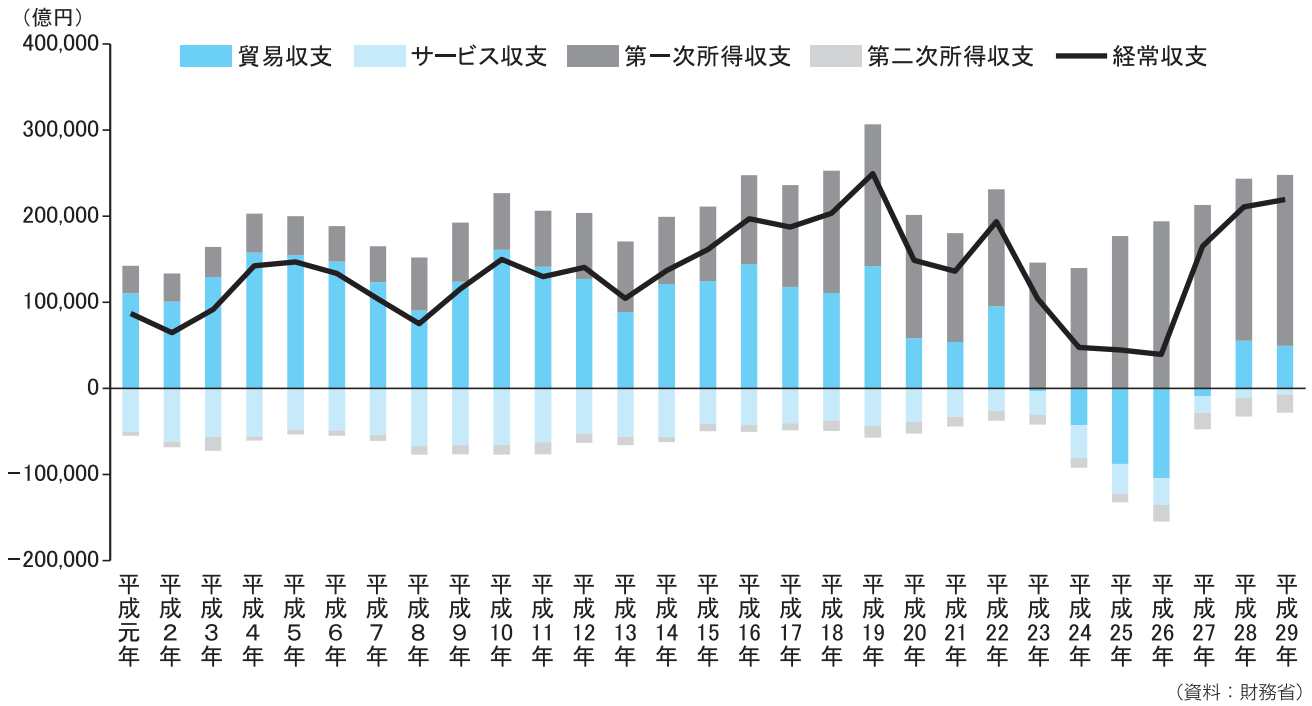
※平成23年基準。連鎖方式。
 平成元～5年は平成23年基準の簡易遡及による。
 ※平成28年、29年についてのみ、毎月勤労統計の再集計に伴う再計算がされている。（資料：内閣府）

円 / ドル相場の推移

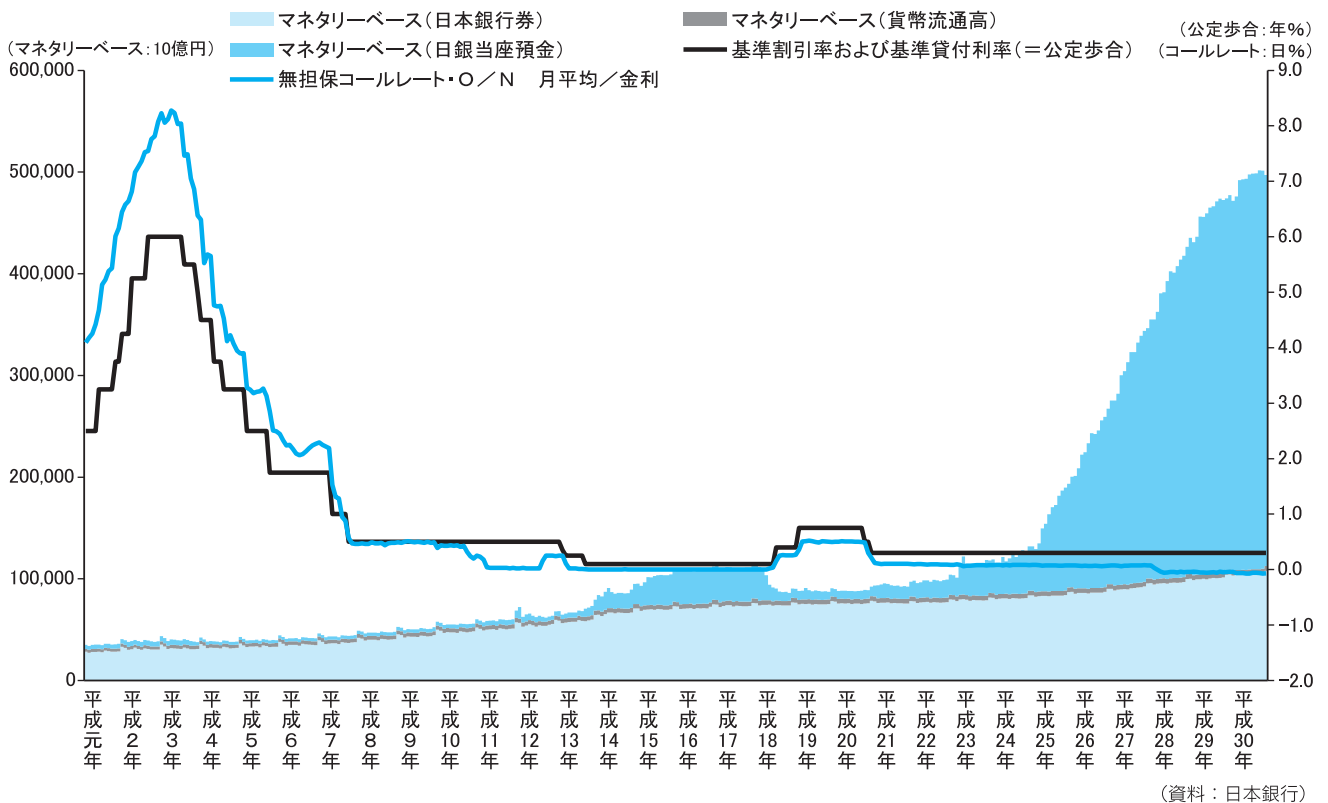


（資料：日本銀行）

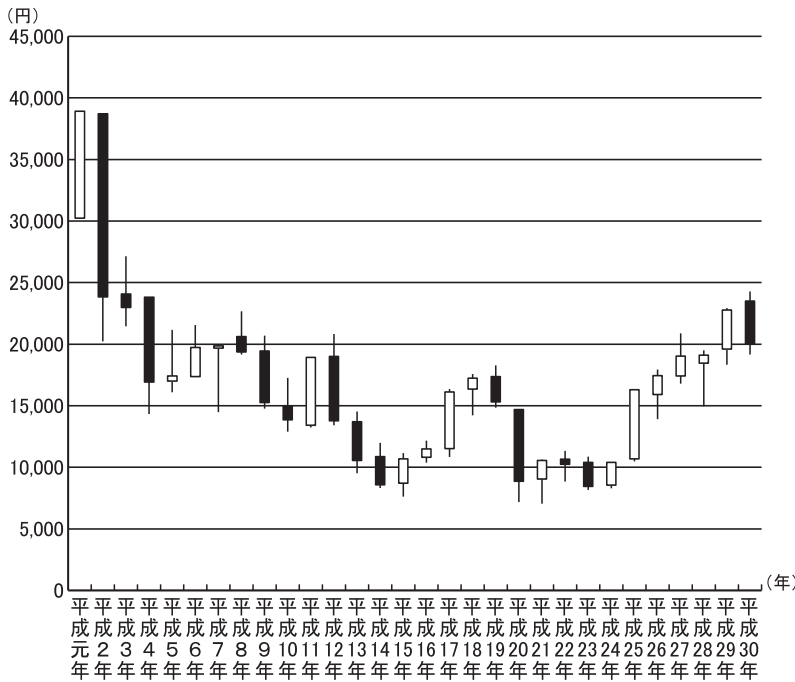
日本の経常収支の推移



政策金利・マネタリーベースの推移



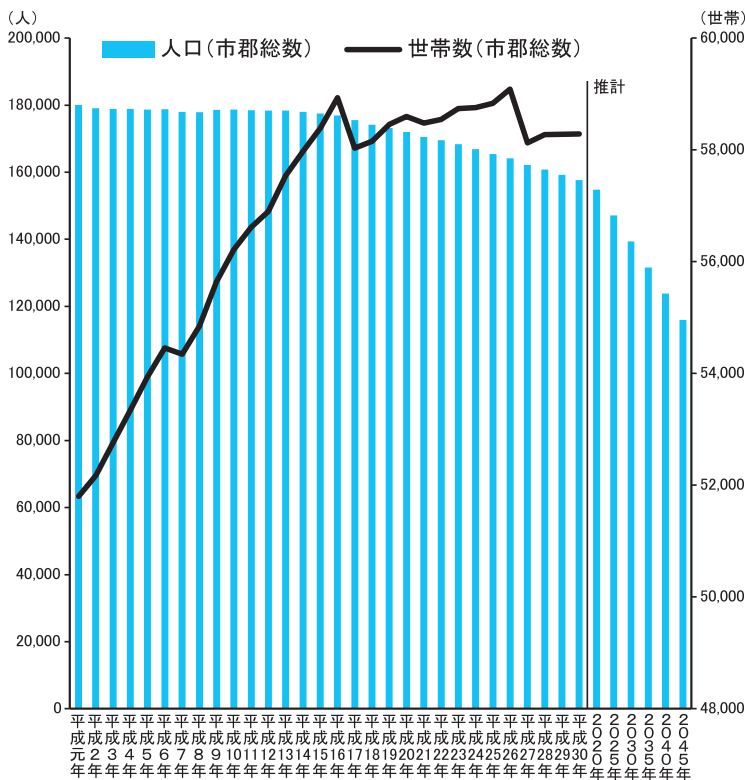
日経平均株価の推移



(円)

年	始 値	高 値	安 値	終 値
平成元年	30,243.66	38,915.87	30,183.79	38,915.87
平成2年	38,712.88	38,712.88	20,221.86	23,848.71
平成3年	24,069.18	27,146.91	21,456.76	22,983.77
平成4年	23,801.18	23,801.18	14,309.41	16,924.95
平成5年	16,994.08	21,148.11	16,078.71	17,417.24
平成6年	17,369.74	21,552.81	17,369.74	19,723.06
平成7年	19,684.04	20,011.76	14,485.41	19,868.15
平成8年	20,618.00	22,666.80	19,161.71	19,361.35
平成9年	19,446.00	20,681.07	14,775.22	15,258.74
平成10年	14,956.84	17,264.34	12,879.97	13,842.17
平成11年	13,415.89	18,934.34	13,232.74	18,934.34
平成12年	19,002.86	20,833.21	13,423.21	13,785.69
平成13年	13,691.49	14,529.41	9,504.41	10,542.62
平成14年	10,871.49	11,979.85	8,303.39	8,578.95
平成15年	8,713.33	11,161.71	7,607.88	10,676.64
平成16年	10,825.17	12,163.89	10,365.40	11,488.76
平成17年	11,517.75	16,344.20	10,825.39	16,111.43
平成18年	16,361.54	17,563.37	14,218.60	17,225.83
平成19年	17,353.67	18,261.98	14,837.66	15,307.78
平成20年	14,691.41	14,691.41	7,162.90	8,859.56
平成21年	9,043.12	10,639.71	7,054.98	10,546.44
平成22年	10,654.79	11,339.30	8,824.06	10,228.92
平成23年	10,398.10	10,857.53	8,160.01	8,455.35
平成24年	8,560.11	10,395.18	8,295.63	10,395.18
平成25年	10,688.11	16,291.31	10,486.99	16,291.31
平成26年	15,908.88	17,935.64	13,910.16	17,450.77
平成27年	17,408.71	20,868.03	16,795.96	19,033.71
平成28年	18,450.98	19,494.53	14,952.02	19,114.37
平成29年	19,594.16	22,939.18	18,335.63	22,764.94
平成30年	23,506.33	24,270.62	19,155.74	20,014.77

飯伊地区の人口と世帯数（市郡総数各年10月1日現在及び推計）

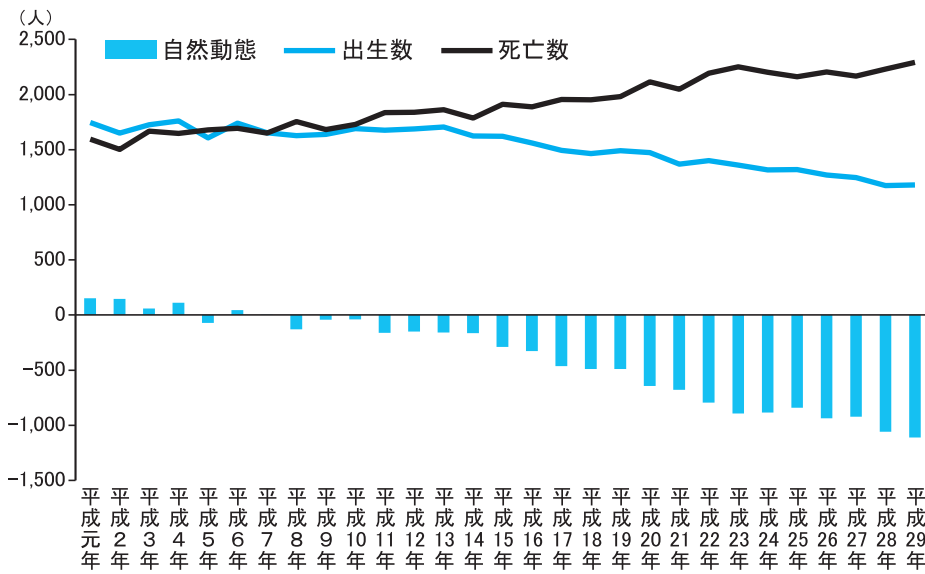


(世帯・人)

	市郡総数		飯田市		下伊那郡	
	世帯数	人 口	世帯数	人 口	世帯数	人 口
平成元年	51,799	180,111	26,983	92,168	24,816	87,943
平成2年	52,172	179,038	27,198	91,859	24,974	87,179
平成3年	52,755	178,897	27,513	91,910	25,242	86,987
平成4年	53,346	178,877	27,867	92,068	25,479	86,809
平成5年	53,940	178,732	33,007	106,876	20,933	71,856
平成6年	54,455	178,835	33,361	107,021	21,094	71,814
平成7年	54,346	178,014	33,577	106,772	20,769	71,242
平成8年	54,848	177,895	34,012	106,886	20,836	71,009
平成9年	55,639	178,635	34,530	107,583	21,109	71,052
平成10年	56,223	178,731	34,936	107,738	21,287	70,993
平成11年	56,614	178,501	35,168	107,510	21,446	70,991
平成12年	56,899	178,392	35,487	107,381	21,412	71,011
平成13年	57,539	178,424	35,876	107,416	21,663	71,008
平成14年	57,971	177,962	36,142	107,220	21,829	70,742
平成15年	58,392	177,549	36,413	107,107	21,979	70,442
平成16年	58,934	176,897	36,805	106,835	22,129	70,062
平成17年	58,032	175,523	37,350	108,624	20,682	66,899
平成18年	58,157	174,135	37,433	107,845	20,724	66,290
平成19年	58,457	173,178	37,646	107,259	20,811	65,919
平成20年	58,597	171,966	37,740	106,630	20,857	65,336
平成21年	58,477	170,577	37,579	105,691	20,898	64,886
平成22年	58,544	169,504	37,867	105,335	20,677	64,169
平成23年	58,737	168,334	37,998	104,728	20,739	63,606
平成24年	58,758	166,860	38,034	103,947	20,724	62,913
平成25年	58,832	165,443	38,053	103,105	20,779	62,338
平成26年	59,087	164,178	38,276	102,446	20,811	61,732
平成27年	58,125	162,200	37,694	101,581	20,431	60,619
平成28年	58,272	160,827	37,858	100,957	20,414	59,870
平成29年	58,277	159,213	37,958	100,077	20,319	59,136
平成30年	58,284	157,615	38,016	99,157	20,268	58,458
2020年		154,813		97,696		57,117
2025年		147,138		93,473		53,665
2030年		139,404		89,133		50,271
2035年		131,623		84,651		46,972
2040年		123,823		80,056		43,767
2045年		115,972		75,411		40,561

(長野県町人口異動調査、国立社会保障・人口問題研究所日本の将来推計人口平成30年推計)

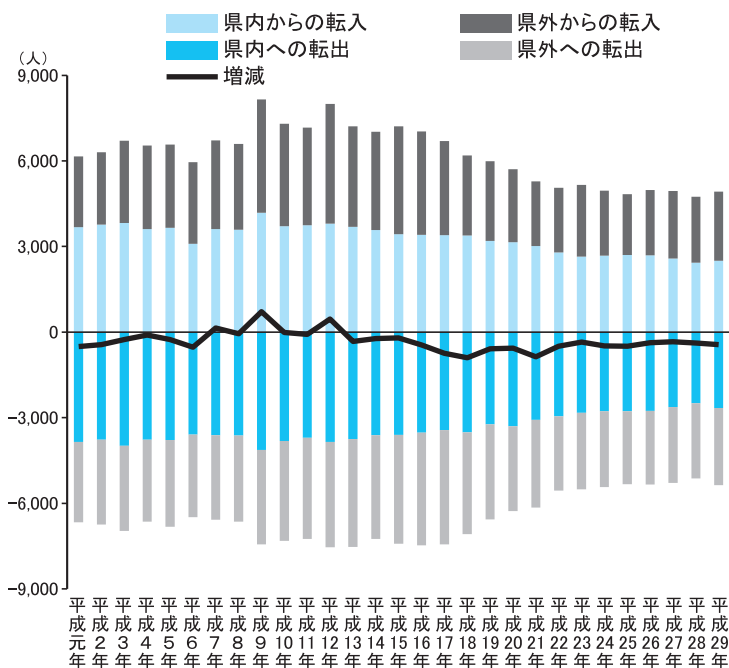
飯伊地区の人口自然動態の推移



(人)			
	自然動態	出生数	死亡数
平成元年	151	1,747	1,596
平成2年	146	1,649	1,503
平成3年	58	1,725	1,667
平成4年	113	1,761	1,648
平成5年	-71	1,607	1,678
平成6年	46	1,741	1,695
平成7年	1	1,652	1,651
平成8年	-128	1,626	1,754
平成9年	-42	1,640	1,682
平成10年	-39	1,690	1,729
平成11年	-161	1,676	1,837
平成12年	-149	1,689	1,838
平成13年	-158	1,704	1,862
平成14年	-163	1,625	1,788
平成15年	-290	1,621	1,911
平成16年	-326	1,561	1,887
平成17年	-462	1,493	1,955
平成18年	-490	1,463	1,953
平成19年	-490	1,491	1,981
平成20年	-643	1,472	2,115
平成21年	-677	1,370	2,047
平成22年	-793	1,400	2,193
平成23年	-892	1,359	2,251
平成24年	-885	1,316	2,201
平成25年	-842	1,319	2,161
平成26年	-937	1,269	2,206
平成27年	-922	1,246	2,168
平成28年	-1,058	1,174	2,232
平成29年	-1,112	1,179	2,291

(厚生労働省「人口動態調査」)

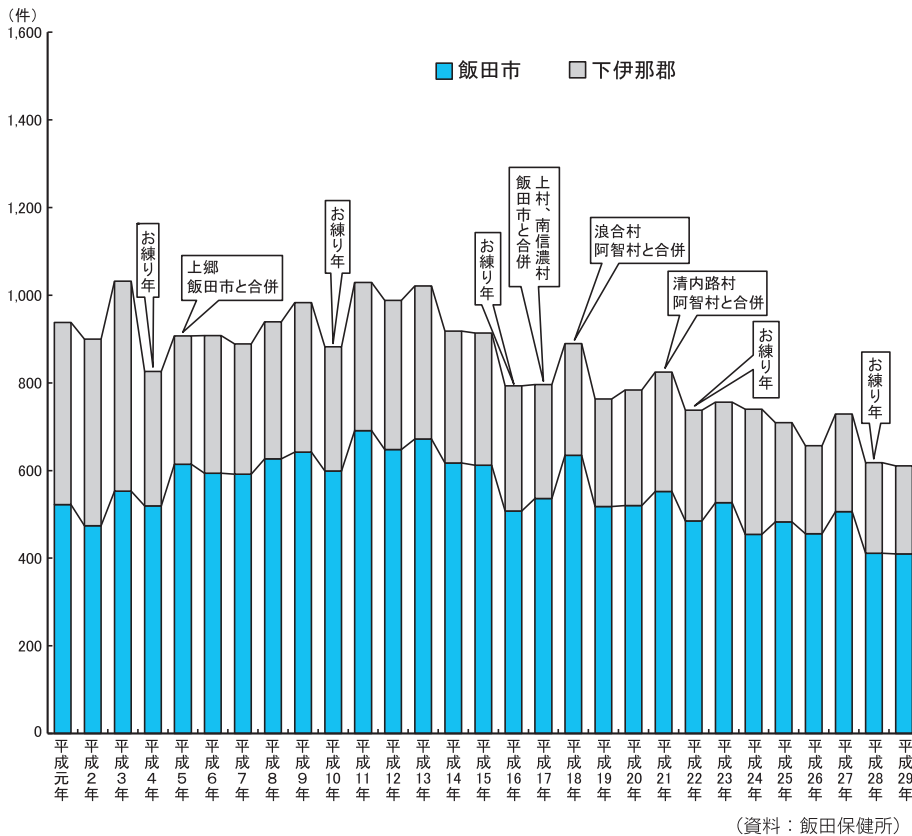
飯伊地区の人口転入、転出の推移



	転入			転出			増減
	総数	県内からの転入	県外からの転入	総数	県内への転出	県外への転出	
平成元年	6,159	3,681	2,478	6,667	3,850	2,817	-508
平成2年	6,309	3,765	2,544	6,743	3,770	2,973	-434
平成3年	6,705	3,826	2,879	6,969	3,984	2,985	-264
平成4年	6,541	3,609	2,932	6,645	3,772	2,873	-104
平成5年	6,568	3,661	2,907	6,826	3,786	3,040	-258
平成6年	5,959	3,090	2,869	6,483	3,596	2,887	-524
平成7年	6,720	3,611	3,109	6,575	3,616	2,959	145
平成8年	6,592	3,589	3,003	6,645	3,624	3,021	-53
平成9年	8,160	4,181	3,979	7,442	4,130	3,312	718
平成10年	7,304	3,711	3,593	7,322	3,814	3,508	-18
平成11年	7,165	3,750	3,415	7,250	3,706	3,544	-85
平成12年	7,999	3,798	4,201	7,541	3,853	3,688	458
平成13年	7,209	3,691	3,518	7,534	3,752	3,782	-325
平成14年	7,026	3,577	3,449	7,250	3,610	3,640	-224
平成15年	7,214	3,436	3,778	7,419	3,609	3,810	-205
平成16年	7,031	3,409	3,622	7,478	3,528	3,950	-447
平成17年	6,700	3,394	3,306	7,437	3,433	4,004	-737
平成18年	6,187	3,392	2,795	7,085	3,519	3,566	-898
平成19年	5,985	3,192	2,793	6,569	3,238	3,331	-584
平成20年	5,715	3,147	2,568	6,276	3,303	2,973	-561
平成21年	5,282	3,017	2,265	6,149	3,071	3,078	-867
平成22年	5,060	2,789	2,271	5,553	2,952	2,601	-493
平成23年	5,162	2,643	2,519	5,512	2,832	2,680	-350
平成24年	4,955	2,680	2,275	5,436	2,776	2,660	-481
平成25年	4,839	2,706	2,133	5,335	2,778	2,557	-496
平成26年	4,975	2,695	2,280	5,343	2,758	2,585	-368
平成27年	4,946	2,579	2,367	5,284	2,631	2,653	-338
平成28年	4,745	2,429	2,316	5,131	2,498	2,633	-386
平成29年	4,927	2,502	2,425	5,366	2,658	2,708	-439

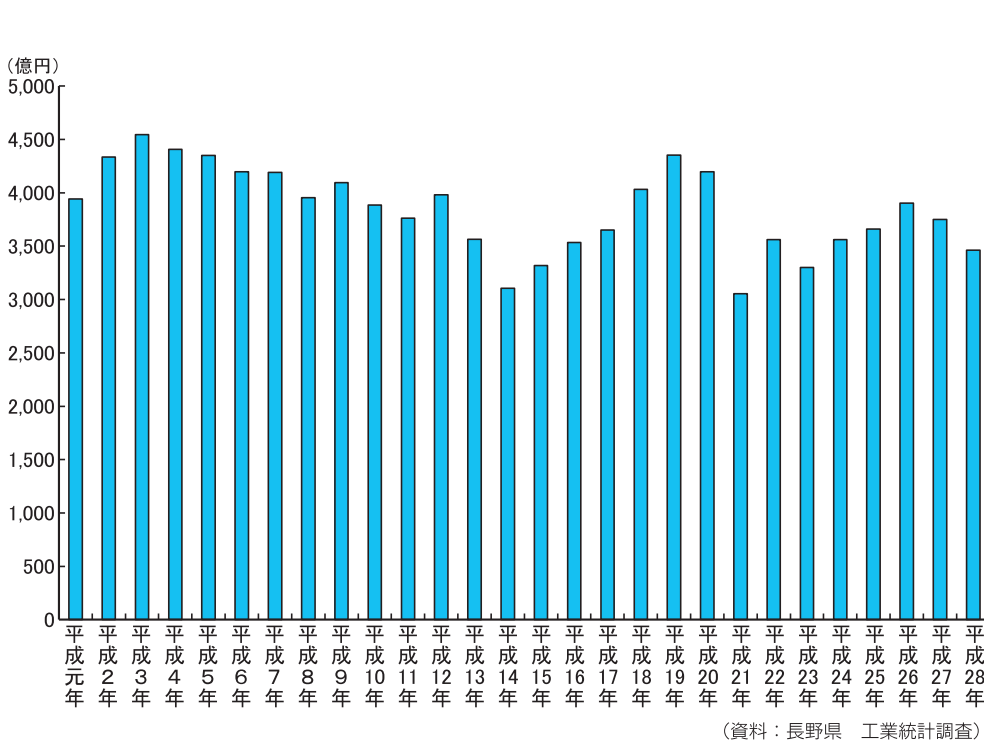
(長野県「毎月人口異動調査」)

婚姻件数の推移



	(件)		
	市郡総数	飯田市	下伊那郡
平成元年	938	522	416
平成2年	900	474	426
平成3年	1,032	553	479
平成4年	826	519	307
平成5年	907	614	293
平成6年	908	594	314
平成7年	889	592	297
平成8年	939	627	312
平成9年	983	642	341
平成10年	882	599	283
平成11年	1,029	691	338
平成12年	988	648	340
平成13年	1,021	672	349
平成14年	918	617	301
平成15年	914	612	302
平成16年	793	508	285
平成17年	796	536	260
平成18年	890	635	255
平成19年	763	518	245
平成20年	784	520	264
平成21年	825	552	273
平成22年	738	485	253
平成23年	756	527	229
平成24年	740	454	286
平成25年	709	483	226
平成26年	657	456	201
平成27年	729	506	203
平成28年	618	411	207
平成29年	611	410	201

飯伊地区の製造品出荷額等の推移



	(億円)
平成元年	3,943
平成2年	4,336
平成3年	4,546
平成4年	4,408
平成5年	4,349
平成6年	4,197
平成7年	4,191
平成8年	3,955
平成9年	4,094
平成10年	3,884
平成11年	3,761
平成12年	3,980
平成13年	3,565
平成14年	3,106
平成15年	3,318
平成16年	3,533
平成17年	3,650
平成18年	4,031
平成19年	4,353
平成20年	4,197
平成21年	3,054
平成22年	3,562
平成23年	3,301
平成24年	3,560
平成25年	3,659
平成26年	3,902
平成27年	3,749
平成28年	3,463

注：平成12年以前は、全事業所計
 ・平成13年以後は、従業員4人以上の事業所計
 ・平成23年と平成27年は経済センサス活動調査の数値。その他の数値は工業統計調査の数値
 ・平成27年については個人経営調査票による調査分を含まない
 ・伏字のある市町村は含まない
 (資料：長野県工業統計調査)